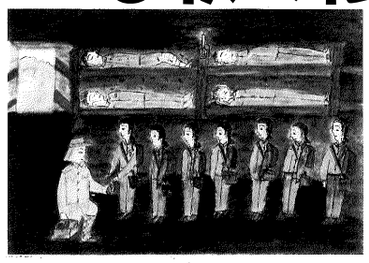
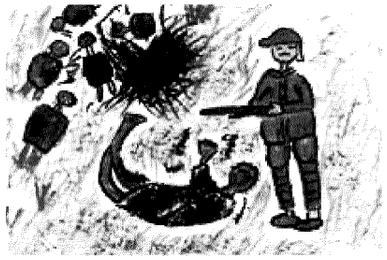
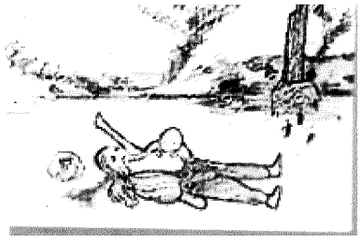
～未来のために～ いま

明石市立二見中学校
第２学年(72 回生)学年通信
平成 31(2019)年　２月４日
第１５１号

６枚の絵を見て







私は正直、前の平和学習のＤＶＤは「辛かったんやな」「苦しかったんやな」と、まるで今の世界とは切り離し、他人事のように心のどこかで思っている自分がいました。ですが、実際の体験を元にした絵を見ると、想像以上に亡くなっている人の悲惨な死に方、家族との別れ方をしていることや、逆に生き残った人は今でもおられて、その人が負った傷はずっとこれからも残ることがわかりました。今は平和だと日本はうたっていますが、それがあるのはこれらの悲しい歴史があるからだと改めてわかりました。もっとちゃんと平和について考えようと思います。（女子）

今回写真を見て、班や個人で考えて、どれも悲しいものだったり、かわいそうなものだらけでした。書いた人がどんな思いで描いたのかが分かって良かったです。一番心に焼き付いたものは②の写真でした。子どもの頭が吹っ飛ばされても抱っこしているところにとても驚きました。２番目に心に残ったのは、③の写真でした。一緒に死ねなくて、殺してくれといっているところにとてもビックリしました。修学旅行で行くまでに沖縄のことを知って、知識がいっぱいになってから行きたいです。（男子）

今回の授業で改めて戦争はしはいけないと思いました。親が子どもを守り、亡くなった親を見て悲しむ子どもや、腕がなくなった人など６つの絵を見ました。この６つの絵はすべて戦争中に何があったのかを示しています。戦争中は気を抜くこともできず、毎日毎日、震えるような日々だったと思います。もし、自分がこの時代に生まれていたらと考えると、本当に耐えられないと思います。今の生活は、戦争の時代に生まれた人からすると、考えられないくらい幸せだと思います。だから、今の自分の暮らしを大切にし、悔いの無いようにしたいです。そして、修学旅行の沖縄は実際にどのようなものなのかをよく見て、学習していこうと思いました。（女子）

絵を見て考えた時と説明を聞いた時の気持ちがだいぶ違いました。以前は、なぜ人は傷つけあうのだろうかとか、同じことを繰り返して、アホじゃないかとか思っていたけど、幼い子が戦争で死ぬとか、麻酔なしで足を切り落とすとかを聞いて、ありきたりの言葉で表せないくらいの気持ちになりました。沖縄に行ってしっかり勉強したいと思いました。（男子）

戦争が何もかもおかしいと思った。殺虫剤を食べたり、車のガソリンで天ぷらを揚げたり、せっけんを食べたり、自決をしたり、殺してくれと頼んだり、顔のない赤ちゃんがいたり、今では考えられない。ひどいけど人間じゃないと思った。だんだん「戦争はダメだ」の意味が何となく分かってきた気がする。人が亡くなるというだけではなく、住民の生活を脅かしている。もっともっと「戦争はダメだ」の本当の意味を理解できるように平和学習に取り組んでいきたいです。（男子）

絵を見てそのあと意味を知って、当たっているものもあれば全然違うものもあった。それどころか、すごくひどかった。ひど過ぎた。また、今まで知っていたものはアメリカ側から見てのことであって、体験した側とでは全然違った。後、死ぬのが恥ずかしいとかの時点で、みんな頭がおかしくなって、体も心もやられていたんだと思う。だから、このことを忘れず、いい修学旅行にしたい。（男子）

沖縄の絵を見て普通ではありえない悲惨な状況が街中に起きていて、食糧難で食べ物でないものも食べたり、精神状態がおかしくなった若い母親など、今となっては想像もつかないことが７５年ほど前にあって、戦争というものは歴史とかに出てくるような感じで何百年も前という印象があったけど、あまり祖父たちの年齢とかと変わらないくらい身近にあった出来事なんだと感じました。ひめゆり学徒隊の方が高齢になっていって、後世に伝えていく人がどんどんと減っていくから、今回の修学旅行ではそういったことをしっかり学んで自分たちから伝えていかないとならないと思いました。（女子）

今の私たちの生活では考えられないことが起こっているのを見て、自分たちは幸せだなあと思いました。今自分たちに何ができるのかはまだ分からないけど、このことを学んで後へつないでいきたいです。また、今このような何でもできて自由に学校に行けるという幸せを感じながら、沖縄の学習に取り組んでいきたいと今回のＦＴで思いました。（女子）

当時、こういうことを体験した人は、身体的にも精神的にもやられたと思う。今日見た絵の中で、もし１番どれが残酷かと聞かれても僕は選べません。今の生活に比べられないほど残酷なので、本当に信じられない。今日見た絵はすぐに思いはわかったけど意味を聞いてから分かることも多く、本当の戦争の恐ろしさを知らないと思った。（男子）

絵を、戦争を知らない私から見たら怖いなとかしか思うことはありませんでしたが、この絵を描いた人たちは、私が思うより何倍もの深い意味を持って描いたんだなということが分かりました。また、絵を描いた人たちは、もう二度と戦争などが起こってほしくないと思い、戦争で体験したことを私たちに伝えたかったのだと思いました。（女子）

絵を見ただけでは分からないような恐ろしさを解説を聞いて味わいました。特に②の絵の母親が子どもを抱いている絵が印象的でした。母親の精神状態がおかしくなったりするほど、戦争は人々を変えていくんだなと初めて知りました。これらの絵を描いた人は思い出したくないことを思い出してまでこの絵を描いたんだと思います。それは、未来に伝えることや、今を生きる私たちにも伝えるためだと思いました。だから、私たちはこれらの絵から、自分たちの力でしっかりと学びとり、それを伝えて行かなければいけないと思います。そのためにも、いっぱい沖縄のことを知って、修学旅行でたくさん学び、学んだとことからさらに興味のあることなどを広めていけるようにしていきたいです。（女子）